

宮本茶園 宮本透

相模原の季刊総合雑誌アゴラから佐野川茶の神奈川県茶品評会・茶園共進会上位入賞に至るまでの取り組みを報告してほしいと依頼がありました。アゴラ 94 号に「佐野川茶誕生と足柄茶北端産地の未来」を投稿してから 5 年、残念ながら後継者を育てられず昨年より佐野川茶製品原料の茶葉を生産する農家は 2 軒だけになってしまいました。足柄茶北端産地が終焉を迎えようとしている状況や産業としての茶栽培継続に全力で取り組む農家の矜持を相模原市民の皆様にお伝えしたいと思い、アゴラ 112 号へ「佐野川茶相模原ブランド構築の歩み」を投稿する事にしました。

先輩農家から借りた資料をひもとくと、佐野川の茶栽培は 1930 年代の旧佐野川村役場記録に残り百年近くの歴史を刻んでいます。2018 年藤野茶業部佐野川茶誕生以来取り組んできた栽培技術向上・製品開発・販路開拓等を振り返りながら、パソコンに向かい原稿を書き上げました。文中「私が認定農業者になり新規就農を志す研修生を受け入れ、茶園経営で十分な所得を得られる農家仲間を育てられれば、産業としての茶栽培は必ず生き残ると確信している」と記しました。先日相模原市役所から「農業経営改善計画認定申請書」をいただきました。認定農業者になれるよう、更なる精進続けます！

・春の茶仕事

2 月の寒肥、3 月の春肥を茶園に施すと休む間もなく春整枝作業が始まります。藤野茶業部員・ヘルパーの高齢化は深刻で、3 人いるヘルパーの 2 人が体調を崩し宮本茶園のアルバイトを引き受けてくださったのは 1 名でした。春整枝は茶畝の樹冠面をていねいに刈り落として凹凸を揃える作業で、深く刈り過ぎると最初に伸びる新芽を落としてしまい摘採が遅れてしまいます。茶園によっては数mm単位の繊細な作業となるので、誰にでもできる仕事ではありません。3 月中旬から作業を始めたのですが機械操作の負担がきつかったようで、5 日目にヘルパーが膝を痛めてしまいました。作業を中止し帰宅いただいたのですが、残った茶園を整枝する目処が立たず途方に暮れてしまいました。日頃交流のある和田の里みちくさの会を頼って機械操作のできる会員に整枝作業をお願いすると「困った時はお互い様ですよ、お手伝いしましょう」と快く引き受けてくださいました。日没までの 2 時間でいねいに整枝作業をしていただいた茶園、夕闇に包まれようとする景観をご覧ください。(写真①)

4 月 18 日県農業技術センターの茶園巡回指導がありました。部員の全茶園で新芽開葉数と長さを調べ、巡回後の部会で摘採日程を検討しました。会議の中で普及員の先生から「上岩の更新茶園は摘採直後に、できれば摘採前に時間を作って整枝しましょう。夏整枝まで持ち越すと徒長枝の芽が伸びて枝が細くなり、来年の新芽が不揃いになってしまいますよ」と助言いただきました。藤野茶業部には JA 神奈川つくい本店から紹介された援農ボランティアがいて、作業を手伝ってもらっています。更新茶園の整枝作業を依頼し、5 月 1 日作業を担っていただきました。シカにかじられ凸凹の長さになった徒長枝を刈ならし機で整える根気のいる仕事、本当に助かりました。(写真②)

春肥・春整枝と茶園管理ごよみの作業を行った茶園は今年もきれいな新芽を伸ばし、良質の茶葉収穫を期待しています。(写真③)しかしながら藤野茶業部は 2025 年度末解散が決まり、部活動の摘採作業は今年が最後です。認定農業者になる努力を続ける私は今春の管理作業のように市民グループ・援農ボランティアの支援があれば、部会解散後も佐野川茶製品の製造・販売継続は可能だと考えています。産業としての佐野川の茶栽培、引き継いでくれる若い新規就農者との出会いを熱望しています！



・野草の天ぷらとお茶摘みの会（4月20日：東京学芸大学 環境教育研究センター）

INCH 恒例行事の野草の天ぷらとお茶摘みの会、木俣師が定年退官されてからは縁遠くなった母校学大キャンパスに立ち入る数少ない機会です。初老となった冒険探検部の古い仲間やすっかり大人になった冒険学校卒業生等、懐かしい仲間と会う事が楽しみで講師を続けています。40 年数年前の学生時代、やぼ耕作団の明峰さんたちと企画した味噌作りの会、部室で仕込んだどぶろくを飲みながら野草を摘んで皆で食したのがこの伝統行事の起源でしょうか？INCH50 周年、こぼれ話の一つです。

今冬は寒い日が続き 3 月になってからも雪が降り、茶の新芽は昨年より 1 週間程遅れています。佐野川の茶園は萌芽期で開葉数は一枚程度ですが、彩色園の茶畑は一芯二葉まで育っています。50 名限定申し込みの参加者と学生スタッフ総出で摘んだ茶葉は 800g でしたが、皆さんがいていないに作業をしたので古葉やゴミの混入はほとんどありませんでした。ホイロの助炭で蒸した葉を揉む事 1 時間、160g の新茶ができあがりました。事前打ち合わせで新芽の生育が遅く収量が少ないので試飲無しと決めたのですが「手もみした新茶を飲みたい」という声が多く、急須と紙コップを用意してもらいました。

野草の採集は樹木医の岩谷さんの指導で行われました。茶葉のかき揚げができなかったのは残念ですが、柿の葉・タンポポの花・ヨモギ等春の味を楽しませていただきました。ちーむゴエモン活動で高橋師からいただいた手作り醤油を持って行ったのですがとても好評で、来年は佐野川チームが仕込んだ醤油を提供して皆さんに味わっていただきたいと思います。



・春の穀物畑・花卉畑

穀物畑では小麦が出穂してきました。麦の穂波がそよ風に揺れる光景は季節が春から夏に移っていく事を感じさせてくれます。しばらく栽培していなかった南部小麦・大麦・団子麦も少しずつ育てています。種子を分けてくださった篤農の気持ちを受け止め、しっかり種継します。

昨夏熱中症で救急搬送された時、高村師から「宮本さんが命を削って献花用の生花を育てても、相模湖ダム建設で命を落とした犠牲者は喜ばない。無理するのはやめなさい」と諭されました。花卉畑の作付けは出荷用盆花だけにしようと考えていたのですが、追悼会事務局長の古澤さんが「一緒に作業しますから今年も生花栽培を続けましょう！」と声をかけてくれました。栽培担当の吉田さんも引き続き作業を担ってくださるので、植付準備をしています。5月7日吉田さんと会場飾花に使うロシアヒマワリを播種、献花用生花の播種は古澤さん親子と作業します。2020 年から始まった相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の生花栽培、新しいメンバーが増え今年も続ける事ができました。



※佐野川に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476 e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。